ジャーマンウィングス9525便墜落事故について

資料4-4

1. 発生日時／場所

○ 3月24日11時頃（現地時間）、バルセロナ発デュッセルドルフ空港向けのジャーマンウィングス9525便がフランス南部のアルプス山脈付近に墜落。

2. 運航者　：　ジャーマンウィングス

○ ドイツの航空会社。ルフトハンザドイツの子会社で、ドイツ国内・欧州各地に運航するLCC（エアバス319型機：43機、エアバス320型機:17機、CRJ-900NextGen：23機を保有）

3. 航空機　：　エアバス式A320－211型（1990年製造）

○世界でのA320型の運航機数：6，194機（うち、日本保有機数：63機）H27．2末時点

日本内訳：ANA：12、スターフライヤー：9、ピーチアビエーション：14、バニラエア：8、ジェットスタージャパン：20

4. 出発地及び最初の着陸地

○バルセロナ・エル・ブラット国際空港発（スペイン）→　デュッセルドルフ空港着（ドイツ）

5. 搭乗者　：　150名（乗員6名、乗客144名（うち、2名日本人））

6. その他

○26日夜(現地時間)、マルセイユ検察当局は、ドイツ人副操縦士が、機長がトイレで操縦室を離れた後、操縦室のドアを開けることを拒否し、意図的に降下ボタンを作動させたと思われると発表。

（その後の報道では、同副操縦士に対して墜落当日の乗務を禁じた医師の証明書が発行されていたこと、また同操縦士には精神疾患の経歴があり、会社側もそれを把握していたと報じられている。）

○27日(現地時間)、欧州航空安全庁は、域内航空会社に対して、暫定的措置として、操縦室に常時2名配置する又は同等の安全対策及びそれによるリスク評価について検討するよう勧告（カナダ当局、豪州当局は暫定措置として操縦室常時2名配置を指示。イージージェットやノルウェー・エアシャトル等の航空会社は操縦室常時2名配置を実施表明）

○今後国土交通省としては、今回の事故に至った背景及び要因や、各国当局及び国際民間航空機関等の動向について、引き続き積極的に情報収集に努めるとともに、本邦航空会社と連携して、操縦室常時２名配置や他の方策について検討を進めて参ります。